

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 矢本愛育会
施設名	矢本西保育園
報告者（役職）	鈴木 よし子（園長）
住所・連絡先	宮城県東松島市矢本字道地浦 1 3 9 - 1
	☎ 0 2 2 5 - 8 4 - 2 8 0 1
	E-mail nishihoikuen@joy.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

プールを活用し四季の遊びの環境の場を作る

○主な助成備品

据え付けプール

1. 実施した保育計画策定の目的

矢本西保育園は、東日本大震災の翌年4月に開園しました。震災の影響から保育園建設が遅れ、開園ぎりぎりでの引き渡しとなり、プール設置までの余裕がなく、公立で使用していた組み立て式のビニール製のプールを使用していましたが、園庭に設置の為、夏祭りや運動会など園庭を使う行事に合わせ、残暑が厳しくても片付ける必要があり、子ども達の事を第一に考えた保育になっておらず、心痛めていました。据え置き型であれば、年間通して固定場所に設置し、夏だけでなく四季を通して青空保育室のように活用し、子ども達に新しい活動の場の提供ができ、また保育士にも柔軟な保育環境での活動を考えて欲しいということを目指しました。

2. 具体的な実施内容

年間を通しての活用ということを目的にしていることから、年度初めにプール企画担当者を決め、年間計画を作成いたしました。

春：ひなたぼっこ・足湯ごっこ（写真①・②）を計画しました。

4月に入り、子ども達が待ちに待った大きなプールを年長児組が中心となり掃除をし、そのまま「ひなたぼっこ」となり、おもいきり背伸びをしたり、泳ぐ真似をしたりと大きなプールを体で感じる事ができたようです。

足湯ごっこではマルチパネルを組み立ててベンチにし、戸外遊びの後に3，4，5歳児組が乳白色のお湯に足をつけました。お湯に色がついていることで、初めて体験する子どもも温泉気分抵抗感なく足湯を楽しむことができたようです。子ども達の「気持ちいい～！」の声と笑顔で、職員の心も温くなる光景でした。



写真①



写真②

夏：プール（写真③・④）・魚釣り・船遊びを計画しました。

プール本番の水遊びを十分に楽しんだ子ども達です。どの年齢の子どもも大きなプールで伸び伸びと、今までできなかったバタ足や潜り、保育士の泳ぐ姿を見てのまねっこ泳ぎ、また、牛乳パックでできた船に乗っての体験や水の量を加減してのシンクロごっこ、子ども達からの発想で、それぞれの年齢に合った遊びを十分に楽しむことができた最高の夏になりました。



写真③



写真④

秋：落ち葉遊び・キャンプごっこ・芋掘りごっこ（写真⑤・⑥）を計画しました。

みんなで散歩などで拾ってきた松ぼっくりやどんぐり・葉っぱなどの秋の自然物。そして毎年のさつま芋掘り体験。今年はさつま芋の収穫量が少なく、0，1，2歳児組の芋掘りは見学だけの為、プールに芋のつるに見立てた新聞紙を入れ、芋掘りごっこをしました。子ども達のこの表情を見てください。どの子も保育士も十分に体を動かし、満足した遊びとなりました。小さい組の楽しい遊びを見た以上児組の子ども達も、新聞紙の中に潜っては秋の自然物を見つける遊びや、新聞紙を丸めて一足早い雪合戦ごっこをするなど遊びも活発になり、歓声とともに遊びを楽しみ、室内とは違うダイナミックな遊びとなりました。



写真⑤



写真⑥

冬：スケート遊び・雪まつり・かまくら作りを計画しました。

テレビ等の影響から「スケートごっこ」や「アナと雪の女王」のなりきりごっこをしている子ども達の姿から、担当保育士がカラーポリで衣装（スカート）を作り、プールの中にリンクを作る工夫をしましたが、今年は極寒という日もありましたがうまくできず、また雪の降る回数も少なく、計画倒れとなり、実現できませんでした。その代わりにと、春に好評だった足湯を卒園する年長児のリクエストでもあり、「げんきの湯」「にごりの湯」「つつるの湯」と名付け実施する予定でいます。今回も障害児デイケアセンター「こどもの広場」の子ども達も招待しての体験で子ども達の表情が楽しみです。

3. その成果と評価

据え付けプールの為、年間通して活用できるようプール環境とプール周りの環境を整備しました。プール本来の水遊びでは、今までと違う大きいプールということで、水の量を加減し、その年齢や目的に合わせた遊びが十分にでき、年長児は保育士の泳ぐ姿（今までのプールではできなかったことです）が刺激となり、自分もやってみよう自分もできるかもという挑戦する姿が多く見られ、「できた」「たのしい」が自信につながり、このことがきっかけで何にでも挑戦する姿、自信ある活動が見られるようになったように思います。

保護者の方々からは小学校に就学してからの学校プールでの心配も聞かれていましたが、今年度のプールの様子を見てからはその心配もなくなったようです。また、子ども達が自主的に考え出した遊びは、本当にどの子も生き生きとしており、満足するまで遊んだ姿には、保育士も一緒に満足し、普段の保育室とは違った青空の下での保育室での活動は心身ともに開放的であり、保育士間でもプールを活用した遊びを柔軟に考えることを知り、これからの保育の幅の広がりにつながることを改めて感じる事ができたと思います。

4. 今後の課題と展望

屋外設置の為、計画通りにいかなかったことが、反省でもあり残念に思います。しかし今年度できなかったことを次年度に実施するだけでなく、新しい計画も作成し、十分活用していきたいと考えています。次年度は乳児にも開放し、戸外ではできないハイハイを行うなど、戸外で他の子ども達の気配を感じながら青空の下での保育に活用したいと思います。また、障害児デイケアセンター「こどもの広場」の子ども達との交流が足りなかったことから、お互いの職員で計画を立て活用できるようにしていきたいと考えています。楽しいことだけの活用ではなく、着衣水泳の体験も大きいプールだからこそできるのではないかな等、活用方法を今後の課題として考えていきたいと思っています。

以上

保育計画成果報告書

法人名	茂原高師保育園
施設名	たかし保育園新浦安
報告者	奥戸昌子（園長）
住所・連絡先	千葉県浦安市入船 5 丁目 46-1
	Tel 047-353-5151
	E-mail shinural@drive.ocn.ne.jp

○タイトル（保育計画）

からだであそぼう！！ どうぶつにへんし〜ん！！
毎日の運動遊びを通して健康な心と体を作る。

○主な助成備品

- ・クライミングロープ・スウィングブイ・ハイハイランド・カラー運動棒・竹馬
- ・ケンケンパー遊び・コーナーポスト・シーガル三輪車・クッションマット



1. 実施した保育計画策定の目的

「子どもたちの姿から 体力増進のカギは毎日の遊びにあり」

朝からぼんやりして「眠い」「疲れた」という子どもたち、体幹が弱く、自分の身体を支えられない子、手先が不器用な子など気になる姿が目につきました。また、心の面でも、集中できず、話が聞けない、自分の欲求が通るまで「せんせ〜せんせ〜」と場所構わず、大声で叫ぶ子や自分の思うようにならないと気持ちをコントロールできずに手を出してしまいう子、口呼吸の子が多いなど、明らかに運動の経験不足からくる心と身体の不健康が感じられました。子どもたちはもっと動き回りたい、もっと健康になりたいと思っているはずです。

子どもたちの健康な心と身体を育むために、基本的な生活習慣の自立と毎日運動遊びを楽しめる保育環境を整えたいと考えました。

- ① 基礎体力の向上を図り、基本運動を習得する。
- ② 良い姿勢を保てるようにする。正しい呼吸法を身に付ける。
- ③ 目と手、手と足、心と身体の協応によってバランスの良い発育を目指す。

- ④ 運動への意欲や関心、集団遊びを通してコミュニケーション能力や認知的能力を身に付ける。
- ⑤ 安全教育、自分を守る子どもへ育てる。
- ⑥ 地域社会とつながり地元を愛する子どもへ、また社会性や公共マナーを身に付ける。

2. 具体的な実施内容

<乳児組>

- ① 一人ひとりの発育に応じた身体遊びを安全に行いました。
雨天以外は必ず戸外活動へ、新鮮な空気を吸って太陽を浴びて遊びます。
- ② 全身運動、手指の運動、生活運動を大人の見守りの中で行いました。登園後から長い廊下を利用して、手押し箱や引き車、足こぎ椅子、ハイハイランドを自分で選んで遊び始めます。
- ③ 保護者へ、子どもたちが心身ともに健康に育つには、親子で体を触れ合ってあそぶ時間や生活リズムの大切さを伝え、「早寝早起き朝ごはん」をお願いしました。また、体の動きを制限しない衣服、子どもの足サイズに合っている靴を用意して頂きました。



0 歳児散歩（少し離れた野球場まで）



1 歳児ハイハイランド

<幼児組>

日課の中で運動遊びを「いつでもだれでもどこでも」定着させ、一日の運動量を増やしました。

- ① 三輪車・竹馬・ケンケンパー遊び・ジャンピングブイ・クライミングロープ、カラー運動棒

「くま歩き」、「猿になろう」、「イルカになろう」、「蛇になろう」と子どもたちが様々な動作を楽しみながら、全身運動ができるようにしました。動物になり切って遊ぶ姿が見られます。長い廊下をヘビになり腕の力で這って、ケンケンパーマットまで行き、ケンケンパーをして、またヘビになり自分のお部屋まで戻ります。くま歩きでは、両手で自分の体を支えられなかった子たちもそれぞれのペースで歩けるようになりました。まだまだ 3、4 歩歩いて休むなど個人差はありますが、その個人差、つまり自分の体の限界が分かることになり、運動以外にも身の安全への加減を自分で分かるのではと考えます。一日中「いつでもだれでもどこでも」体作りが出来るようにしています。当初、動機づけでシールを貼ることを考えましたが、日常化することで必要ないことも分かりました。



② 歩くことを通して、自立した子どもへ

開園から園庭やホールが無い環境が、運動能力の発達を損なわないように、週に 1 回遠出散歩、月に 1 回遠出遠足を取り入れてきました。乳児から歩くこと＝全身運動を行うようにしてきました。

太陽を浴び、自然の中で虫に出会い、気象を知り、また地域の方々と触れ合い、地元を知ります。呼吸器官や肌の鍛錬にもなり、何よりも自然からの学びは無限です。更に歩くことで体のバランスを整え、血流を盛んにして、脳の活性化と良いことばかりです。浦安の四季を楽しみ、自分の歩いた分だけ心も身体も強くなります。今年度は、3、4、5 歳児異年齢クラスは 5.2 キロの高洲中央公園まで歩きました。2 歳児も往復 4.5 キロ総合公園まで、1 歳児は往復 3 キロ・・・普段の歩育から少しずつ距離を延ばしてきました。



③ 顎の運動

噛むことを大切にするためにカミカミ献立、食材の形状も発達に応じて提供しています。健康と食べることは密接につながっています。2 歳児から玄米、押し麦ご飯、おやつで毎回煮干し、おしゃぶり昆布を提供しています。よく噛むことで顔の表情が豊かになり、消化器官も健康に、また鼻呼吸から呼吸が深まり、姿勢も良くなると言われます。よく噛む習慣や会話のはずむ楽しい雰囲気での食事は、乳幼児期だけでなく生涯にわたり大切な習慣だと思います。



3. その成果と評価

これらの運動を継続的にやってきた結果

- ① 子どもたちの心と身体がしっかりと目覚めて、自分の遊びたい欲求が湧いてきました。心身に良い反応が起こっています。つまり、受け身ではなく、主体的に参加する姿が見られるようになりました。
- ② 長い距離を歩くことで、自立心の芽生え、一人ひとりの自信につながりました。また、足腰が強くなり、片足でもふらつく子が少なくなりました。体を移動するときの動き、体のバランスを取る動き、多様な動きが育つように今後も歩くことを運動の大きな柱にしていきます。
- ③ 生活作業が手先の運動へ
四季を通じて地域の方々と触れ合い、関係が育っています。地域のふれあい会の皆さんと米作り、公園の草取り手伝い、花植えのお手伝い、廊下の雑巾がけ、自分の上履き洗いなど粗大運動から手先、微細運動へ、生活作業が運動になります。生活力を育てることも自信につながります。働く大人たちとの出会いは貴重な学びです。
- ④ 子どもの怪我が減少しました。
顔をぶつけることが少なくなり転んでも手が出ています。まだ開園3年と期間が短いため、今後も怪我の発生、状態などデーターを集めていきます。過去には25年6月、5歳児男児が籠を持っていて、いきなり他児に引っ張られて転倒して上腕骨顆上骨折が1名ありました。26年度はありません。
- ⑤ 三輪車、竹馬、ジャンピング、缶ポックリ遊びなどは、開放しており、お迎え時に保護者と遊ぶ姿が見られます。運動の一日量が今回の助成を受けて室内、戸外どちらも増えました。



4. 今後の課題と展望

子どもたちの運動能力を育むには継続して行うことが重要です。継続して行うために今後の課題です。

- ① 生活まると運動あそび=道具に頼らない遊びも創造していきます。

子どもの発達についてよく学びます。子どもの脳の重さは新生児 350 g から満 1 歳 800g、4、5 歳児では、1,100 g と成長していきます（乳児の保育・幼児の保育コダーイ芸術教育研究所著参照）。神経回路の形成は目覚ましいものがあります。乳幼児期の経験が生涯に渡って運動好きになるのか、健康な子どもの発育を保障することが保育園の役割です。一人ひ

りの子どもの発育に合わせて、どの遊びからどのような力が獲得できるのか理解し、共に楽しんで、いつでもどこでも誰でも遊びながら運動経験を積み重ねていきたいと思います。

② 運動遊具、道具を使って更にワクワクドキドキの運動経験を作ります。

年齢に応じた道具を使って、遊びを高めていきます。道具は大きな動機づけになります。頂いたスウィングブイ、クライミングロープを取り付けてあると目の色が違います。子どもたちのエネルギーは無限で、更に難しいことにチャレンジしたい欲求を満たしていきたいと思います。

③ 運動の意義、健康の意義を保護者、職員みんなで共有すること

子どもを取り巻く社会環境が便利、いや貧相になり、その問題は子どもたちの心や身体に現れています。事実、小中学校の不登校が12万人(25年度)、子どもの貧困、乳児の夜型や生活習慣病、全て外注の生活に心身ともに悲鳴を上げています。大人がどう安全や安心の遊び学び場を提供できるのか、乳幼児や児童への向き合い方、社会の質も問われています。子どもは社会の宝です。大人側が決めて入所してくる保育所(子どもからは望んで来ません)は、子どもの生きる権利を保障し、健やかな発育を保証していく場、保護者に子育ては楽しいと思ってもらう場です。そして、宝である子ども自身が、自分の生命を大切に思い、相手の生命も尊いと思える経験を積み重ねながら育てたいと考えます。

健康的な生活習慣は財産となります。異年齢保育の中で、多様な遊びを広げて、公園での遊び方、転び方も上手になってきました。子どもたちの興味が湧いてくる場所でもどのように遊ぶのか子どもたち自身が考えて遊んでいます。



小さな怪我を沢山経験して、大きな怪我につながらないように、身を守る安全教育も行っていきたいと思います。運動面から取り組んだ活動ですが、毎日の生活の中に様々な手仕事や動作があり、子どもにとって大切な育ちがあると日々感じます。

子どもを囲む衣食住の環境は、子どもの健康につながり、将来への大きな社会投資です。運動を経験させればよいと言うことではなく、子どもの人格、心も同時に育っている乳幼児期だからこそ、大人の知恵と愛情を込めていきたいと思います。

世界を自分で広げ、遊ぶのが大好き、体を使うのが大好きな子どもへ育てて参ります。

以上

保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人ワーク・ライフ・バランス ラボ
施設名	てのひら保育園
報告者（役職）	中嶋篤子（理事長）
住所・連絡先	東京都足立区舎人1－25－9 昇豊ビル1階 ☎ 03（6803）1887 E-mail tenohira@dream.jp

○タイトル（保育計画）

赤ちゃんの時から いろんな運動遊びで 元気なてのひらっ子に

○主な助成備品

ウレタン製のプレイジム「ソフトプレイランド」、EVAスポンジ「平均台定床型・20H」、ジャンプマット、木製の折り畳み式の滑り台・階段、二人乗りのバギー

1. 実施した保育計画策定の目的

東京北東部の足立区に位置する「てのひら保育園」は、足立区独自の待機児解消施設の足立区小規模保育室として、平成24年度にオープンしました。0歳児から2歳児までの19名をお預かりする施設で、一人ひとりの気持ちや成長を大切に、子どもの保育環境を大切にしながら、寄り添い見守りながらの保育を大切に運営してきました。

0歳から2歳までの乳幼児の発達は、「寝返り」から始まり「座る」「這う」「立つ」「伝い歩き」「一人歩き」「走る」「ジャンプ」とその運動機能の成長がとても大きい時期です。園内にはホールや園庭がないのですが、幸い片道150mから500mという近くに8箇所も公園があるので、毎日の保育に散歩を取り入れて、園児の身体機能の発育を促しています。

しかし、公園での歩き廻りや滑り台などの遊具遊びは主に1歳以上児になるため、0歳児でも運動遊びができる環境づくりが課題でした。また、雨の日などお散歩に行けない日の1、2歳児の室内遊びにも工夫が必要でした。そこで、後述の遊具等を購入しました。

2. 具体的な実施内容

（ア）ウレタン製のプレイジム「ソフトプレイランド」

日常の室内遊びの時も、坂道や階段の上り下りを経験することにより、0才児では這う時の支えとして足の親指使いができるようになります。また、1、2才児では移動のバランス機能の向上を目指します。

（イ）EVAスポンジ 「平均台定床型・20H」

高さ20cm幅15cmの台の上を歩くことにより、1、2才児の移動のバランス機能向上を目指します。時には紙芝居を見るときにベンチとして利用します。

(ウ) ジャンプマット

2歳前後から少しの段差のジャンプを好むので、こうしたマットを遊びに利用して、遊びの中で子ども達の姿勢維持筋力の成長やジャンプ力（瞬発力・脚力・着地バランス力）の向上を目指します。

(エ) 木製の折り畳み式の滑り台・階段

雨や強風などでお散歩に行けない日の室内遊び用に、折り畳み式の階段や滑り台トンネルがセットになったこの遊具を利用することで、子ども達の運動量を確保していきます。順番を待ったり、滑り方の工夫も体験させます。

(オ) 二人乗りのバギー

公園への散歩が日課です。歩ける子は手をつないで歩いており、ひとり立ちできる子はお散歩カーに乗っていけるのですが、月齢の低い0才児は職員がおんぶして移動しています。2人乗りバギーがあれば赤ちゃんにも心地よく公園に移動されます。

3. その成果と評価

(ア) ウレタン製のプレイジム

この1年で最も利用したのがこの「プレイジム」です。朝の自由遊びのときや散歩に行けない時の運動遊びにセットしました。事故がないように階段と中心台、スロープを繋げて一方通行のルールを作ってみんなに指導しました。

0歳児は、階段を這って登ること、そして中心台で座ってスロープを滑り降りて遊びました。当初11か月児でも階段を這って上ることができない子もいましたが、どんどん得意になり歩いて登ろうとしたり、腹ばいで頭から滑ろうとしたりして楽しんでいました。階段を安全に降りる「後ろ這い這い」姿勢で足元から降りることも体験させました。

1歳児は、歩いて階段を上ろうとしますが、職員の手を借りて一旦同じ段に両足を揃えて一段ずつ登っていました。またスロープの下り方には様々工夫して頭から腹ばいで滑ったりしていました。

2歳児は、一通りの遊び方の後、スロープを歩いて降りようとつま先に力を入れてバランスをとったり、スロープを歩いて登ったり、座って二人で滑ったり想定外の遊び方を見つけて楽しんでいました。遊び慣れてくると階段からの飛び降りジャンプも始まり、中心台からのジャンプができるととても喜んでいました。



(イ) EVA スポンジ 「平均台定床型・20H」

当初横にして高さ15cmの平均台として、カニさん歩きをしたり前歩きを楽しんでいました。固定台をつけた高さ20cmの平均台にすると2歳児でも歩き方が慎重になって保育士の手を借りて歩いて渡っていました。そのうち慣れてくると、平均台の上からジャンプしたりして遊んでいましたが、紙芝居の時にベンチ代わりに利用したら、それがおまごとコーナーの仕切りになったりと、多彩な役割を果たしてくれました。



(ウ) ジャンプマット



このジャンプマットは、中がバネのような機能になっていて、誰でもジャンプしやすくなっています。その分歩くと不安定さが出てくるので、それが楽しいらしく何度も何度も歩いていました。そのうちジャンプができるようになり飛び跳ねたり、マットとマットを離しても飛べるようになりました。

(エ) 木製の折り畳み式の滑り台



毎日の散歩も、寒い日や風の強い日など、0歳児はお留守番の時があります。そんな時に人気なのがこの室内滑り台です。階段上りや踊り場に手すりが付いているので、登りやすいようです。滑り方も、プレイジムで慣れてきているので喜んで滑っていました。時々踊り場に立ち止まって（多分見晴らしが良いから？）行列が出来ることもよくありました。

4. 今後の課題と展望

こうして今回子どもたちの運動機能の発育を助長させるべく、第一生命財団の支援で購入した遊具を使用しましたが、その成果をどのように計ったら良いのかと職員会で検討を重ねました。まず、それぞれ遊具でどのような遊びをしているか？の観察から始まり、分

析整理をしてそれらを一覧表にまとめました。このことは、保育士の子どもの運動機能の発達に対する観察力を共有できました。

そして、1か月に1回記録する児童票の発育記録と同様に、月齢ごとにチェックしたのが下の表です。左から0歳児、1歳児、2歳児と平均的な子どものチェック表を並べました。3の「階段からのジャンプ」や「ジャンピングマット」は1歳児と2歳児が同じような時期に達成しています。平均台の歩き方も同様になっています。

こうした結果を見ると、運動発達を促すには「取り組みの環境設定」が重要なのではないかと思います。様々な体験を通して機能が成長していく一つのモデルが垣間見られたように思います。しかし取り組みはまだ1年余りであり、こうした遊具を使っていない子どもとの比較をするには、もう少しケース例や経年変化データが必要だと思われます。

とはいうものの、この3月には、1歳6～10か月になる0歳児組の6人も、片道500mの舎人（とねり）公園まで保育士と手をつないで歩いて往復しています。どの子もお散歩カーに乗るのは嫌がり、歩いていきたいと保育士の手を引くくらいです。そしてしっかりした足取りで楽しく歩いています。

そんな様子を見ると、室内運動遊具や毎日の散歩を取り入れた「てのひら保育園」の取り組みは、子ども達の丈夫な身体づくりになっていると思います。これからもこうした取り組みとその観察・評価を続けていく予定です。

てのひら保育園 運動遊びチェック表		H26.4.1		遊びチェック表		H26.4.1		遊びチェック表		H26.4.1	
氏名	●●●●●	生年月日	平成25年 6月 10日	生年月日	平成24年 5月 13日	生年月日	平成23年 10月 13日	生年月日	平成23年 10月 13日	生年月日	平成23年 10月 13日
性別	男	4月時点の月齢	0歳 11か月	性別	女	4月時点の月齢	1歳 10か月	性別	男	4月時点の月齢	2歳 5か月
1 階段・のぼり	階段を這い這いでのぼる 階段を手をつないでのぼる 一旦足を同じ段にして一段ずつのぼる 左右の足を交互に出して一段ずつのぼる	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
2 階段・くだり	階段を這い這いでくだる 階段を手をつないでくだる 一旦左右の足を同じ段にそろえて一段ずつくだる 左右の足を交互に出して一段ずつくだる	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
3 階段からジャンプ	一段目からお尻や手をつかずにジャンプできる 二段目からお尻や手をつかずにジャンプできる 三段目からお尻や手をつかずにジャンプできる	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
4 すべり台	膝ばいで足から先にすべる 前向きに座ってすべる 坂を這い這いですべる 坂を歩いてすべる 坂を歩いて降りる	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
5 ジャンピングマット	マットの上で続けて2～5回ジャンプする マットの上で続けて5～10回ジャンプする 5cm離れたマットを飛び移る 10cm離れたマットを飛び移る	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
6 平均台	横にした15cm高さの平均台の上を ひとりでカニ歩きで歩く 足を揃えながら前に移動する 足を交互に出して歩く 足台を付けた20cm高さの平均台 ひとりでカニ歩きで歩く 足を揃えながら前に移動する 足を交互に出して歩く	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3
7 散歩	保育者と手をつないで馬車公園まで歩く 保育者と手をつないで汽車公園まで歩く 保育者と手をつないで舎人公園まで歩く 友達と手をつないで馬車公園まで歩く 友達と手をつないで汽車公園まで歩く 友達と手をつないで舎人公園まで歩く	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3	4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3

以上

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 春和会
施設名	篠崎わんぱく保育園
報告者（役職）	北川 真珠美（主任）
住所・連絡先	東京都江戸川区篠崎町 2－1 9－2 1
	☎ 03-3676-0189
	E-mail shinozakiwanpakuhokuhoikuen@towakai.com

○タイトル（保育計画）

丈夫な体づくりで 子どもたちにイキイキした未来を！

○主な助成備品

- ① カラーリング（フラフープ） ② ミニプレイバルーン ③ ハモンドプリンセス
 ④ キンダージャンピング ⑤ ウェイブバランス ⑥ サンドボックス（砂場）
 ⑦ レインボートンネル ⑧ レインボーバランスストーン
 ⑨ ドミノ ⑩ 洗える畳 ⑪ 洗えるカーペット 等

1. 実施した保育計画策定の目的

篠崎わんぱく保育園の母体である桐和会はクリニックをはじめとして、老人保健施設等、病気になっても安心して自分らしく人生を送る手伝いに長年尽力してきました。だからこそ、私たちは「丈夫な体」であることの素晴らしさや大切さを実感しております。

「丈夫な体」こそが人生の可能性を広げ生きる力を育む基盤となり、何歳になっても自分らしくイキイキした毎日を送れることを目指し、運動機能の発達が著しい乳幼児期の子どもたちに対し、毎日の遊びの中で多様な動きを体験させ、この「丈夫な体」をつくるプログラムをと思い、この保育計画を考案しました。

2. 具体的な実施内容

○乳児（0・1・2歳）

子どもの姿：行動範囲が広がり、運動機能が発達し始める

ねらい：「動きたい」という子どもの意欲を満たすと共にほどよい刺激を与え運動機能の発達を促す

環境設定：安心で安全、且つ感触の異なる様々な素材の床を設置する
 「洗えるカーペット」を設置

○幼児（３・４・５歳）

子どもの姿：基本的な運動機能・バランス感覚が発達し、体の動きが巧みになる

ねらい：異年齢の関わりの中で運動機能を高めると共に、協調性や社会性を育む

環境設定

室外：思い切り体を動かすには十分なスペースでない当園の事情を踏まえ、戸外でじっくり遊びこむ活動を行うことを目的に「サンドボックス（砂場）」を設置する



室内：以下の目的のため、適した遊具を設置する

目的

★登る・バランスをとる・くぐる・はう・飛ぶ・かがむ・つかむなどの動きを経験する。

それらを経験するために以下の遊具を設置

- ① ウェイブバランス平均台
- ② レインボーバランスストーン
- ③ レインボートンネル
- ④ キンダージャンピング
- ⑤ カラーリング
- ⑥ 木製ドミノたおし500コンテナBOX

★かがむ、立ち上がるなどの動きと共に仲間と協力する力、相手を思いやる力を育む。

それらを経験するために以下の遊具を設置

- ⑦ ミニプレイバルーン

★リトミックを通し、リズム感や体を動かす楽しさを知る

それらを経験するために以下の遊具を設置

- ⑧ ハモンドプリンセス

様々の音楽が出るオルガンの様な楽器

3. その成果と結果

以下の運動能力（動き＋筋力）の発達。

遊具	育んだ動き	育まれた筋力
① ウェイブバランス平均台	平衡性・敏捷性	瞬発力
② レインボーバランスストーン	平衡性・敏捷性	瞬発力
③ レインボートンネル	柔軟性・敏捷性	持久力
④ キンダージャンピング	柔軟性・敏捷性	瞬発力
⑤ カラーリング	平衡性・柔軟性	持久力・瞬発力
⑥ 木製ドミノたおし	平衡性・柔軟性	瞬発力
⑦ ミニプレイバルーン	柔軟性	瞬発力
⑧ ハモンドプリンセス	平衡性・柔軟性	瞬発力



① ウェイブバランス平均台
(長くねくねしているもの)
② レインボーバランスストーン
(途中にある黄色い丸いもの)



③ レインボートンネル



④ キンダージャンピング



⑤ カラーリング

丈夫な体作りで 子どもたちにイキイキした未来を！！を目的にして保育してきた結果、運動能力発達に伴う自信の構築と「もっと新しいことに挑戦したい」という意欲が育ってきたように思う。また、様々な遊具を通して、友だちとの関わりも活発になり、協調性や社会性なども身につく、新たな遊び方の創出など、創造性・想像性が豊かになり、遊びのレパートリーが増え、遊びを通して、子どもたちに身につけて欲しい力を身につけることが出来たと思う。

4. 今後の課題と展望

遊びのレパートリーが増え、子どもたちも楽しみながら元気に過ごしているが、それぞれの年齢での活動になってしまうことが多かったので、今後は、獲得した遊びの展開を広げられるように保育士をはじめ、園全体で努力に努め、異年齢での関わりも大切にしながら、引き続き丈夫な体作りに向けて精進していきたいと思う。

また、この成果が本当に現れるのは、子ども達がイキイキした未来を過ごしているかという未来の姿になるが、そういった未来がわんぱく保育園から巣立った子どもたちの元に訪れるように子どもたちと日々関わっていきたいと思う。

以上

保育計画成果報告書

法人名	株式会社 ポピンズ
施設名	ポピンズナーサリースクール田端
報告者（役職）	小幡麗華（施設長）
住所・連絡先	東京都北区田端 6-1-1 田端アスカタワー 2F
	☎ 03-5815-2131
	E-mail tabata@poppins.co.jp

○タイトル（保育計画）

身体運動能力を高める保育プログラム

○主な助成備品

マット、鉄棒、トンネル、跳び箱等

1. 実施した保育計画策定の目的

当保育施設は、都内オフィスビル内にて運営されており園庭を持たない。その為、園庭を有する園の児童に比べて、身体運動活動の経験が乏しい傾向がある。

そこで、本保育計画では室内において積極的に器具を用いる運動カリキュラムを体操講師指導の下で作成し実践することで、運動能力を伸ばすことを目的とした。

2. 具体的な実施内容

室内での多様な運動を確保するため、マット、鉄棒、トンネル、跳び箱を用意した。室内における運動カリキュラムの作成においては、体操講師の指導のもと表1の年間計画を作成し実施した。また9月の1ヵ月間は、体操講師と共に週5回程度の体幹感覚を高める運動を集中して行った。

運動カリキュラムの実施記録として、ドキュメンテーションを用いた。ドキュメンテーションの詳細については3.成果と評価にて記す。また、成果を保護者に発表する場として11月に運動会を催した。

【年間の進め方】表1参照

前半は運動器具に触れ基本的動作の習得を目的とした。後半は低い台に両手を着け、身体を支える跳び箱を跳ぶようなしぐさ（図2右）など複数の動きを取り入れて、運動の可能性を広げた。

【体操講師との取り組み】

9月の1ヵ月間、体幹を意識したトレーニングを行った。

実施時間は毎回15～30分程度であり、毎日午後に行った。使用する器具は講師が子どもの興味に応じて決定した。



図1 2歳児での取り組み

バランス感覚がなく転倒が多い2歳児での取り組みでは、両足で幅の狭い板（平均台）に立ち歩行の感覚で上り下りの動作を繰り返し動きながら、自身の重心感覚を養う運動を行った（図1左）。またこの運動と並行して、両手と尻と3点バランスを取る運動も行った（図1中央）。

初めは立位中にバランスを崩すことで横転したり、集中力がなく途中で運動をやめてしまう子どもの姿が見られた。しかし日々運動を重ねるうちに、図1左のように柔らかいマットの上で片足でのバランス運動も行えるようになってきた。後半には、身体のバランスをコントロールし集中する時間も長くなった。



図2 1歳児での取り組み

1歳児には鉄棒やマットを使用し、両手で自分の体を支える運動を中心に実施した（図2）。この運動は今後の身体全体を動かす基礎となる。



図3 0歳児での取り組み

0歳児はマットを使用して、まだ歩行動作の確立も十分でない子ども達が全身を自由に動かす運動を行った（図3）。

3. その成果と評価

この身体運動カリキュラムを通して、身体のバランス感覚が養われ歩行が安定した。カリキュラムを始める前年度に比べ戸外活動でも長い距離を歩くことができるようになり、園庭を持たない施設も室内運動を行うことで他の場面でも成果を得られる事が分かった。

〈ドキュメンテーションを用いての結果〉

また子ども達の成長を保育スタッフが情報共有するツールとして「ドキュメンテーション」を作成した。保育を振り返ることで観察力や子どもへの理解を深め一人ひとりの配慮を可視化し、より具体的に身体運動カリキュラムを実施することができた。

「ドキュメンテーション」を取り入れ、成果が得られた例が下記である。

模倣からの習得 はいはいでの マット山登り

～体操講師との運動遊び～
スノードロップ
Yちゃん(9ヶ月)



マットの山には奥行きがあるものの、低い所まで来ると、そこから先へは進めず、止まってしまった。



保育者が山の向こう側からYちゃんの名前を叫んだり、山を下りている友達の様子に気づくように声をかけた。



身動きできなくなり、しばらく止まった後、先へは進まず横から降りる事を見せる。



友だちの下りる様子を見つめた後に、山の途中からだが、下りる動作を模倣する姿が見られた。

9月の1ヶ月間、体操講師と一緒に毎日運動遊びを行った。マットの山登りに挑戦するものの、どうしても山を越えられなかったYちゃんに対し、山の向こう側で呼んでみたり、友だちや保育者が一緒に登り降りし、降りる姿を意識的に見せるようになった。Yちゃんは、時折、同じようにははいはいで進んでいくお友だちの様子をじっと見つめ、時折、山の途中からだが降りる動作を真似する姿が見られた。

9月の終わり頃、下の写真のようにYちゃんが1人でマットの山登りを完成させていた。1歩1歩身体のバランスを取りながら、慎重に進んでいく姿が見られた。

毎日の運動遊びの繰り返しの中で、「模倣」というこの時期の特徴的な発達段階を経て、マットの山登りを習得したと思われる。今後、Yちゃんは、つかまり立ちやつたい歩きを始めると予想されるが、その為に考えられるカリキュラムとして、脚筋力や腹筋力の強化を図る。足上げキック等の運動遊びがあり、日々の保育の中に取り入れていきたいと考えている。

2014/10



9ヶ月の子どもがはいはいをしてマットの山に登るまでの様子である。始めは途中で断念していたが、回数を重ねるうちに両手足で支え自分の重心を見つけて登れるようになった記録である。ドキュメンテーションを作成したことで、保育スタッフも子ども一人ひとりにあった今後の運動カリキュラムのねらいを作成することができた。

〈体操講師との取り組み結果〉

9月の集中した期間であるが体操講師との実践成果の中で子どもの運動能力の更なる可能性を引き出すことができた。

2歳児の成果では、立位中にバランスを崩すことで横転したり集中力がなく途中で運動をやめてしまう子どもの姿がみられたが、運動を重ねるうちに柔らかいマットの上で片足バランス運動も行えるようになった。また、講師の指導が進むにつれ身体のバランスをコントロールし集中できる時間も長くなった。

このように講師による運動器具を使つての体幹運動を楽しく伝えることで、運動に対する興味も持つことができ、更に集力して行うことで子どもの身体を鍛えることのみだけでなく、心の発達の変化も見ることができた。子ども達は楽しかった実感をその日迎えに来た保護者に伝えることで、子ども自身の自信となり結果として心身ともに成長した。

4. 今後の課題と展望

今回は一年のみの取り組みであつたが、今後は0歳～2歳まで継続して行つたときの効果を知る必要がある。

また今回の実施計画では当保育施設だけの取り組みだった為、実際に戸外活動が盛んな施設との運動発達の違いが分からない。今後、同社系列園の園庭を有する施設と比較することで室内の運動カリキュラムの効果を明らかにしていく。

さらに2歳児までの保育施設の為、毎年定員の半数以上の子ども達が新年度に入園することが予測される。その為、年度当初は継続児童と新入児童との運動発達の個人差があることを踏まえ、カリキュラム作成を行っていきたい。

今後も待機児童が増え当保育施設と同じ環境（園庭を持たない施設）が増加すると思われる。園庭がなくても環境が整っていれば子どもの運動能力に差がないことを立証して、今後の保育施設の未来に役立てたいと思う。

<表 1>

身体運動カリキュラム2014年

	0歳児		1歳児		2歳児	
	活 動 内 容	ね ら い	活 動 内 容	ね ら い	活 動 内 容	ね ら い
Apr 4月	①寝返りをする。 ②飛行機をしてみよう。 ③寝転んだまま引っ張って動かしてみよう。	①視界の変化による興味・好奇心・腹筋の筋力強化 ②情報収集の知覚機能の向上 ③腹部の筋力強化 ④情報収集の知覚機能の向上 ⑤空間認知能力の発達	①風船つきをする ②うさぎとびジャンプをする	①知覚運動の向上 空間認知能力の発達 目と手の協応性の発達 ②空間認知能力の発達 瞬発力・リズム感の向上	①四つ這いでゆっくり這ったり(歩く)、素早く這ったり(走る)する	①移動系運動スキル(這う)の向上 筋力・巧み性・リズム感の向上と身体認知能力・模倣力の育成
May 5月	①目的地まで高遠いで移動する。 ②トンネルくぐりをする。	①空間認識能力の発達 ②移動系運動スキルの発達	①グーバー跳びをする	①知覚運動機能の向上 リズム感覚・平衡性・全身筋力の向上	①ボールを投げ始める	①協応性・筋力の向上 操作系運動スキル(投げる)の発達
June 6月	①足上げキックする。	①脚筋力・腹筋力の強化	①ボールを投げ入れる	①空間認知能力の発達 協応性の向上 操作系運動スキル(投げる)の発達	①相手にボールを転がす ボールを胸でキャッチしてみる	①操作系運動スキル(両手で受け止める)の向上 協応性・巧み性・空間認知能力・集中力の育成
Jul 7月	①四つ這いから腹を持ち上げる。 ②四つ這いなる。	①平衡性の向上、上下肢・背腹の筋力強化	①ボールを投げ入れる お友だちに投げてみる	①その場での運動スキル・操作系運動スキル(両手渡し)の向上 巧み性・身体認知力の育成	①手首をつかって縄を用いて大波・小波縦波を作る	①操作系運動スキル(縦・横波をつくる)の向上 協応性・筋力・空間認知能力の育成
Aug 8月	①軽い抵抗を与えても、自力で起き上がる。	①身体認知力の向上 ②全身筋力の強化	①アヒル歩きをする ②ぞう歩きをする	①協応性の向上 模範能力の発達 移動系運動スキル(歩く)の発達 ②身体認知力の向上 移動系運動スキル(歩く)の発達	①腕を前後に振って走る	①移動系運動スキル(走る)の向上 リズム感・空間認知能力の育成
Sep 9月	①ボールを転がす	①協応性の向上 ②操作系運動スキル(転がす)の発達	①棒ひっぱりをする	①全身筋力の強化 空間認知能力の発達	①片足でボールを転がしたり止めたりする	①操作系運動スキル(足で止める)の向上 協応性・身体認知力・空間認知能力の育成
Oct 10月	①2拍子で歩く	①リズム感覚の向上。 ②移動系運動スキル(歩く)の発達	①縄くぐり	①移動系運動スキル(くぐる)の向上 柔軟性・巧み性・身体認知力・空間認知能力の育成	①マットの上で転がる	①移動性運動スキル(横転が)の向上 巧み性・柔軟性・筋力・空間認知能力の育成
Nov 11月	①2拍子で歩く	①リズム感覚の向上。 ②移動系運動スキル(歩く)の発達	①一列になって行進して歩く	①移動系運動スキル(バランスをとって歩く)の向上 リズム感・身体認知力・空間認知能力の育成 姿勢づくり	①鉄棒にぶら下がり、脚を曲げて体を前後に振る	①非移動性運動スキル・その場での運動スキル(ぶら下がって、からだを振る)の向上 筋力・持久力・身体認知力・空間認知能力の育成
Dec 12月	①ボールを投げ始める	①協応性の向上 ②操作系運動スキル(投げる)の発達	①平均台の上で両手を広げる	①平衡性運動スキル(台の上に立つ)の向上 平衡性・筋力・身体認知力の育成	①ボールを自分の上に向けてキャッチする ②平均台の上でその場で足踏みをする	①操作系運動スキル(投げて受け取る)の向上 協応性・巧み性・空間認知能力の育成
Jan 1月	①補助付き足踏みをする	①瞬発力の向上 ②リズム感覚・空間認知能力の発達	①着たり・脱いだり輪くぐり競争	①その場での運動スキル・操作性運動スキル(輪の中をくぐる)の向上 巧み性・柔軟性・身体認知力・空間認知能力の育成	①その場でジャンプしてジャンプの頂点でボールを投げる	①操作系運動スキル(ジャンプ投げる)の向上 瞬発力・空中バランス・巧み性・空間認知能力の育成
Feb 2月	①手首をつかって紐を振り回す	①協応性の向上 ②操作系運動スキル(振り回す)の発達	①フープをつかって跳んでみる	①移動系運動スキル(跳ぶ)の向上 瞬発力・巧み性・平衡性・空間認知能力の育成	①フープ中に、グーバー跳びでジャンプする	①移動性運動スキル(跳ぶ)の向上 瞬発力・巧み性・平衡性・空間認知能力の育成
Mar 3月	①股を通して後ろを見る。	①柔軟性・平衡性の向上 ②空間認知能力の発達	①フープをつかって両足・片足跳びをする	①移動性運動スキル(跳んで入ったり、出たりする)の向上 瞬発力・リズム感・巧み性・空間認知能力の育成	①腰を落として腕を組んで歩く	①移動性運動スキル(歩く)の向上 腹筋力・脚筋力・平衡性の育成